

100

 Since 1926

YEARS

学校法人呉竹学園は2026年に
創立100周年を迎えます。

会長挨拶

このたび、呉竹会の新会長を拝命いたしました城内成一です。現在の横浜呉竹医療専門学校である旧・東京高等鍼灸学校熱海分校の鍼灸マツサージ科を卒業後、大宮呉竹医療専門学校で追加ライセンス取得として柔道整復科Ⅱ部を卒業した純呉竹産です。歴代の会長をはじめ、これまで呉竹会の発展にご尽力くださった多くの卒業生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

呉竹会の皆さまには、在校生の支援を中心に学校行事である呉竹祭開催への支援や学校環境整備等を支えていただいております。本年度は、同好会活動も活発に行われたほか、課外活動として柔道大会での救護参加や「第二回あん摩甲子園」の開催校になるなど、学生の挑戦意欲を高めるためにも支援を行ってまいりました。これからも、学生が積極的に挑戦できる環境づくりを支援し、母校の発展に寄与していきたいと考えております。

卒業生の皆さまにおかれましては、在学中に培われた経験を糧にそれぞれの道で活躍いただきとともに、今後も母校の良き支援者として呉竹会活動にご参加・ご協力を賜れば幸いです。また、来年度には呉竹学園百周年を迎える記念すべき節目となるため、卒業生の皆さまと共に、百周年を盛り上げていけることを楽しみにしております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



会長 城内 成一

校長挨拶

平素より本校学生の活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私も校長着任三年目を迎え、日々教育の質の向上と学生支援の充実を努めております。臨床教育においては、実習先に担当者を配置し、実習生の状況把握や卒業生の活躍状況の確認、さらには本校教育へのご意見・ご指摘をいただける体制を整えてまいりました。これにより、現場との連携が深まり、教育内容の改善にもつながっております。

来年度、本学園は創立百周年という大きな節目を迎えます。これを記念し、特別な行事の開催を現在検討しており、学生・卒業生・関係者の皆様とともに歩んできた歴史を振り返り、未来への展望を共有する機会としたいと考えております。また、資格取得者を対象とした開業支援やリレント教育を担う「鍼灸高度臨床実践科」の設置を進めており、生涯学習の充実と地域医療への貢献を目指しております。

教育体制においても、新たに教職員を迎え、学校運営および教育指導力の向上に一層努めております。教職員の特技や専門性を活かした課外授業の展開に加え、医療オリンピック・要穴カルタ大会・あん摩マツサージ指圧甲子園など、外部イベントへの参加促進を通じて、学生の挑戦と成長の機会を広げております。さらに、学生の多様な学びの充実を図るため、関係業団の皆様によるボランティア参加も奨励しております。実践的な学びと交流の場として大きな役割を果たしております。柔道整復科の赤岡志保先生が全日本柔道連盟よりS級審判員に認定されるという快挙もあり、教員の専門性が高く評価されたことは本校の誇りです。加えて、第2回あん摩甲子園にて本校学生が最優秀賞を受賞するなど、学生の活躍も目覚ましいものがあります。そしてこの度、同窓会会長に城内成一先生がご就任されましたことは、同窓会活動のさらなる発展に大きな力となるものと確信しております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



学校長 齊藤 秀樹



卒業生の集い



【柔道整復科】

2025年度の「卒業生の集い」は呉竹祭との同日開催ということもあり、1期生から14期生まで計32名の卒業生が集まってくれました。今回の講師は6期卒業生である臺 慎之介 先生による「運動器疾患に対する機能的アプローチ」で講義と実技を交えた動きのある講演で多方向から刺激を受ける内容であったと思います。講義の後に行われた様々な世代を交えたワークショップや懇親会でも熱が冷めることなく、各方面で活発な意見交換が行われておりました！

卒業生にとっても貴重な情報交換の場として今後も続けていきたいと思っております。

(柔道整復科 科長 本多 修二)

【鍼灸科・鍼灸マッサージ科】

6月15日(日)に第2回「卒業生の集い」を開催しました。昨年の第1回は卒業生5名でのスタートでしたが、今年は1期生から14期生まで計21名と多くの卒業生に参加いただきました。今回は、各班の班長が現在の仕事内容、やりがい、今後の展望などを話し、5班分回することで、多くの交流の機会を持つことができました。社会人として立派に成長した卒業生の姿に先生方も大変喜んでいました。

来年も第3回を開催します。多くの卒業生にご参加頂き、卒業生同士のつながりを益々大きくしていきたいと思っております。ご参加をお待ちしております。

(鍼灸科・鍼灸マッサージ科 科長 坂本 辰徳)



公開講座情報

呉竹会では、会員および有資格者の生涯学習に資するため、公開講座を開催しています。今年度の公開講座は以下の通りです。公開講座に興味のある方は学校ホームページからお申し込みください。

講演日：令和7年 11月16日(日) 午後1時30分～3時00分
演題：『学校生活のいろはと 東洋医学の実践』
講演者：根岸 隆行 先生 (鍼灸マッサージ科I部卒業)

講演日：令和7年 11月16日(日) 午後1時30分～3時00分
演題：『柔道整復師の行う運動療法～接骨院で出来る地域貢献～』
講演者：臺 慎之介 先生 (柔道整復科I部卒業)

講演日：令和7年 12月21日(日) 午後1時30分～3時00分
演題：『トレーナー現場で大切なこと』
講演者：平山 采佳 先生 (柔道整復科I部卒業)

講演日：令和8年 1月11日(日) 午後1時30分～3時00分
演題：『私が美容鍼灸を行う上で大切にしていること』
講演者：黒崎 のぞみ 先生 (鍼灸マッサージ科I部卒業)



SNS



*** フォロワー1000名達成 ***
本校の日常を発信しています!!

SNSツールを活用した学校広報活動の一環としてインスタグラムやLINEを運用中！
本校の志願者をはじめ卒業生や業界関係者の皆さまにご支持いただき、本校インスタグラムは今年7月にフォロワー1000名達成しました！今後も引き続き、年間行事、授業内容、入試やイベント情報の他、卒業生の来校報告や治療院訪問などの多岐にわたり記事を発信してまいります。卒業生の皆さまからのフォローもお待ちしております♪



26年4月新学科新設！ 鍼灸高度臨床実践科

はり師・きゅう師（以下「はき師」）の有資格者（本校入学までに取得見込みの方を含む）を対象とした、臨床教育に特化した1年間の卒業教育コースです。
はき師に認められている開業権を活かし、医療機関と連携して地域医療の一角を担える人材、および高い知識・技術を備えた施術者として企業の中で指導的な立場を担える人材の育成を目指し、学内外の施設で徹底的な臨床教育（指導と実践）を行います。その中核的科目である「臨床研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、総時間数のうち90%近くを占めます。また、「働きながら学ぶ」というコンセプトのもと、施術管理者の要件である1年間の実務経験を積むことができます。



入試情報



本校ではインターネットからの手続きを行うWEB出願を導入しています。試験実施後は合格結果の通知なども全てWEB上から確認ができます。校友会推薦奨学制度を利用される志願者も各年度、複数名入学しております。卒業生の皆さまにおかれましては、あん摩マッサージ、鍼灸、柔道整復にご興味をお持ちの志願者に向けて今後ともご紹介をお願いいたします。

WEB出願

- 願書の取り寄せ不要！
- 締切間近でも出願OK！
- スマホから出願OK！
- 願書記入の手間なし！
- 受験票や可否結果はネット確認！

<ul style="list-style-type: none"> ✓ 総単位数の90%が臨床研修 ✓ 即戦力の人材教育 ✓ 開業に向けた実践的な鍼灸教育 ✓ 資格保持者のキャリアアップに ✓ 鍼灸のアドバンスド教育 ✓ 様々な企業で臨床研修 	定員 20名 修業年限 1年 募集要項 公開中	
--	--	--

入試区分	出願期間	試験日
一般入試2次	令和7年11月28日(金)～12月4日(木)	令和7年12月7日(日)
一般入試3次	令和8年1月16日(金)～1月22日(木)	令和8年1月25日(日)
一般入試4次	令和8年2月6日(金)～2月12日(木)	令和8年2月15日(日)
一般入試5次	令和8年2月27日(金)～3月5日(木)	令和8年3月8日(日)

※一般入試3次～5次については定員に達した学科の募集は停止いたします。

特別講座・ゼミ活動

課外授業として実施している特別講座の中には、本校の在校生に限定せず、志願者や有資格者、卒業生も対象とした講座も開催し、さまざまなテーマでイベントが催されました。中には、本校教員の強みをテーマにしたイベントで終わらず、企業様とのコラボレーションで実施する講座も開催されました。さらに、ゼミ活動では在校生に向けて積極的な学びを得る機会を提供しています。



《ゼミ活動》

- 「こころとからだの癒しゼミ」（坂本 辰徳）
- 「パルスゼミ」（武井 良之）
- 「スポーツトレーナーゼミ」（深谷 昂平）

今年度開催の特別講座は
本校HPより告知を実施！
卒業生もぜひご参加ください♪

《特別講座タイトル》

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 「肩こりとはりきゅう」 | 「眠れない・疲れやすい…その不調、あん摩で整えませんか？」 |
| 「せんねん灸セルフケア」 | 「艾づくり」 |
| 「痛みの鍼灸治療」 | 「整える鍼灸治療 ～良くするを構造化～」 |
| 「腕の痛みに対するマッサージ」 | 「美顔マッサージ～オイル実践～」 |
| 「おしりの筋肉」 | 「年末年始の胃腸回復」 |
| 「山正さんが語る お灸の勉強会」 | 「ふくらはぎに痛みに対するマッサージ」 |
| 「美顔マッサージ」 | 「豚を用いた解剖セミナー」※在校生向け |

※今後開催予定の講座タイトルについては変更する可能性があります。

同好会活動

現在は10団体が同好会活動を行っています。原則的に活動内容の制限は無く、学術研究・趣味娯楽・スポーツ等、様々な分野の同好会が活動を通じて、幅広い年代の生徒が集まる本校の中でも学科・年齢の壁を越え、同じ分野に興味のある仲間同士で親交を深めることが出来ています。

《同好会一覧》

- | | |
|------------|---------------|
| 柔道同好会 | マッサージ同好会 |
| 柔道トレーナー同好会 | BBS(バスケットボール) |
| 鍼灸同好会 | 超音波研究会 |
| ランニング同好会 | VBC(バレーボール) |
| フットサル同好会 | スポーツトレーナー |





『呉竹祭』は呉竹会が主催する大きなイベントの一つです。令和7年6月15日（日）、大宮呉竹医療専門学校にて第12回呉竹祭を開催しました。穏やかな天候のもと、近隣の方々や卒業生、学生のご家族、受験生など200名を超える多くの方にご来場いただき、会場は活気にあふれました。開閉会式では呉竹会前会長の山岸克也先生より、学生たちの取組みをたたえる温かい総評をいただきました。クラスイベントでは、アイスクリームやたこ焼き、メイド喫茶、餃子ピザや焼きそば、フランクフルトなどバラエティ豊かな企画が並び、学生たちは声をかけ合いながら協力して運営しました。来場者とのやり取りを通じて笑顔があふれ、交流の輪が広がる一日となりました。次年度も学生たちがさらに工夫を凝らし、皆さまに楽しんでいただける呉竹祭を開催する予定です。卒業生や地域の皆さま、本紙をご覧の方もぜひお越しください。

(柔道整復科 荷田 翼)

はりきゅう無料体験&埼玉県立特別支援学校
塙保己一学園との学生交流イベント



埼玉県鍼灸師会協力の『はりきゅう無料体験』には、合計160名の来場者の方が、埼玉県立特別支援学校塙保己一学園のあん摩体験には、在校生、教職員が参加し、はり・きゅう・あん摩の体験と交流をしました。塙保己一学園との交流イベントは昨年に引き続き、在校生にとっても充実した時間になったと思います。ご協力頂いた埼玉県鍼灸師会の先生方、塙保己一学園の皆さま、誠にありがとうございました。

チャリティーあん摩マッサージ指圧



学生が行う『チャリティーあん摩マッサージ指圧』は今年も行行列ができるほど、たくさんの方々がお越しになり、施術にご協力いただきました。マッサージの施術費は受けていただいた方から「募金」という形でいただいております。今年は合計54,970円となりました。集まったお金は特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ様に寄付させていただきました。

特別イベント



第10回より行われているイベント『特別イベント』。今年度は1組のダンスと「すぎやんのマジックショー」、「ソロライブ」、そして最大イベントの「第2回マッスルコンテスト」が行われ、鍛えられた肉体とパフォーマンスに会場は大興奮。ラストの締めは柔道整復科I部3年生によるライブイベントで幕を下ろしました。



- ◆ 来場者数 (パンフレット配布部数) **279部** (第11回開催 266部)
- ◆ チャリティーあん摩マッサージ指圧 募金金額 **¥54,970** (67名来場)
(第11回 ¥30,332 47名来場)
- ◆ 埼玉県鍼灸師会はりきゅう無料体験 **来場者 160名** (第11回 151名)



～中国研修報告～



7月27日より8月3日の8日間にわたる第32回「上海中医薬大学短期留学」は、教育的・文化的・人間的な成長の機会に満ちていた。初日、空港には全員が時間通りに集合し、スムーズな出発を迎えた。フライトは快適で予定より早く到着。スケジュールに余裕ができたが、大学側の柔軟な対応により急遽講義が追加され、学生の学びの機会が広がった。夜の歓迎会では上海中医薬大学のスタッフや本学園の教職員、東京呉竹医療専門学校、横浜呉医療専門学校、大宮呉竹医療専門学校の三校の学生同士の交流が深まり、緊張もほぐれた。2日目以降は解剖実習や病院見学が中心となり、学生たちは真剣な姿勢で臨床現場に触れ、医療人としての責任感を育んだ。体調不良者への丁寧な対応や、日本食の手配などといった配慮が随所に見られ、安全管理と教育的配慮が両立されていた。希望者が参加した雑技団の鑑賞や、夜の豫園での自由行動では、異文化への理解と感性の刺激が得られ学生は満足した様子であった。5日目には、学園創立40周年を記念する式典が開催され、講演・交流会・記念撮影・除幕式が行われた。式典では、学園と大学との長年の交流の歴史が振り返られ、100周年までの交流を見据えた石碑が除幕された。その石碑には、未来への希望と継続的な友好の意思が刻まれた。単なる記念物ではなく、両校の絆と教育理念の象徴であり、教育と友情のバトンを次代へと手渡す意志の表れでもある。40年の歩みは通過点であり、100年の未来を共に築くというメッセージには、教育者・医療者としての使命と、国境を越えた協働の可能性が感じられ心に響いた。学生たちと国際交流センターの前で記念撮影を行い、国際的な医療教育の一端を担う自覚と誇りを胸に刻んだ。

短期留学最終日である6日目には、学生も環境に馴染み、より高度な学びが展開された。夕刻には謝恩会が開催され、外灘の夜景を背景に学生たちは感謝の言葉を交わし、和やかな雰囲気の中で交流を深めた。翌7日目は7日間コースの帰国対応が中心となり、帰国にむかうバスを見送った。8日間コースの学生は自由時間を穏やかに過ごし、全体を通じて大きなトラブルもなく過ごせた。今回の研修は、医学教育の深化だけでなく、文化理解・倫理意識・協働の姿勢を育む貴重な機会となった。40周年の節目に立ち会えたことは、学生にとっても教職員にとっても大きな意味を持ち、今後の交流と発展への期待を新たにすることもあった。100周年に向けた第一歩として、この経験が未来の医療人の礎となることを願ってやまない。本短期留学を通じて得られた学びと絆は、通訳・企画・運営に携わってくださった皆様の支えによって築かれました。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

(鍼灸科・鍼灸マッサージ科 武井 良之)



～呉竹医学会学術大会開催報告～

2025.10.4 (土) 場所：東京呉竹医療専門学校



第36回呉竹医学会学術大会が、令和7年10月4日(土)、東京呉竹医療専門学校にて開催されました。昭和64年(平成元年)の第1回から数えて36回目となる今大会は、「鍼灸・柔整研究の進むべき道」をテーマに掲げ、学生・卒業生・教職員にとって研究と交流の貴重な場となりました。

午前の部では、各校の2年生による分科会、附属施術研修生による症例報告会、さらに教員や卒業生による一般口演が行われ、臨床や教育に直結する多彩な研究成果が発表されました。学生たちは発表や質疑を通じて研究の意義を体感し、臨床家としての基礎を培う機会となりました。正午からの教育講演では、昭和医科大学の砂川正隆教授を迎え、「基礎研究が導く鍼灸・柔整の未来ー鍼刺激・電気刺激の科学的根拠と臨床への応用ー」と題してご講演をいただきました。鎮痛や抗ストレス作用に関する最新の知見、さらに基礎研究と臨床をつなぐ展望が示され、参加者にとって刺激的な内容となりました。

午後は実技セッションが各教室で同時開催されました。松浦悠人先生による「うつ病に対する鍼灸治療」、二瓶伊浩先生の「骨盤帯機能評価の有用性ー体幹安定性が股関節機能を改善するー」をはじめ、訪問鍼灸、指圧、歩行動作分析など、多角的で実践的なテーマが取り上げられました。臨床経験豊富な講師陣の指導のもと、参加者は最新の知識と技術を体験的に学ぶことができました。

閉会式では発表者への表彰が行われ、大会を締めくくりました。今回の学術大会は、基礎研究から臨床実践、教育、学生研究に至るまで幅広く網羅され、まさに呉竹医学会の進むべき方向性を示すものとなりました。また、来年は呉竹学園が創立100周年を迎える節目の年でもあります。本大会で得られた知見と交流を礎に、伝統を継承しつつ未来を切り拓く学びと実践を重ね、学園の新たな100年へと歩みを進めてまいります。

(柔道整復科 藤原 廣大)

スポーツ大会



二〇二五年五月二日(金)、さいたま市大宮体育館にて、第14回入スポーツ大会を開催いたしました。本大会は、集団競技のクラス対抗戦を実施することによって、学生間のコミュニケーションを促し、チームワークやリーダーシップの人間関係や社会形成に必要な能力を引き出す機会を設けられています。また、大会開催にあたり、学生主体の運営委員会を設置し、進行や審判などを自発的に行うことで、多様な考えや立場を理解し、傾聴し、自分の考えを正確に伝える力を養うことを目的としています。特に入学して間もない1年生にとっては、友好を深める絶好の場となりました。

今年度も、柔道整復科、鍼灸マッサージ科、鍼灸科の各クラスによるドッジボールとソフトバレーボールの予選リーグ・決勝リーグを実施し、白熱した試合が繰り広げられました。さらに、エキシビジョンマッチでは、学科や学年の枠を超えたチーム編成による競技が行われ、普段の授業では得られない学生同士の交流が生まれました。

(鍼灸科・鍼灸マッサージ科 佐藤 麻未)

柔道大会 救護活動参加報告

令和7年8月17日(日)～19日(火)の3日間、埼玉県立武道館で開催された柔道錬成大会において、柔整科・鍼灸マッサージ科の学生が合同で救護活動を行いました。

初日は捻挫や突き指などの外傷対応が中心となり、翌日からは再受傷予防のテーピングを希望する選手が増え、学生は練習開始前から長時間にわたり対応しました。効率的な運営のため、上級生を中心に役割を分担し、1年生も含めた小グループでの指導体制を整えたことで、学科・学年を超えた交流が生まれました。また、監督への鍼治療体験も行い、筋緊張の改善など効果を実感していただきました。会場での横断幕掲示や案内配布により、本校の認知向上にもつながりました。学生アンケートでは外傷への関心や学習意欲の向上が見られ、今回の経験が大きな学びにつながったことがうかがえます。

(柔道整復科 赤岡 志保)



キッズ柔道クラブ会員募集

呉竹道場キッズ柔道クラブでは会員を募集しています。お子様、お知り合いで見学・無料体験入会を希望される方がいらっしゃいましたら、お気軽にお問い合わせください。当日の柔道衣は当会で用意します。
[電話 048-658-0001]

- 【場所】 大宮呉竹医療専門学校 5階柔道場
さいたま市大宮区桜木町1-185-1
- 【曜日】 火・金曜日
(ただし祝日および休校日はお休みです)
- 【時間】 午後5時00分から午後7時00分まで
- 【対象者】 小学校2年生～6年生
- 【費用】 一か月毎の会費 3,000円
～入会時に係る費用～
 - ・入会金 2,000円
 - ・全日本柔道連盟登録料 1,200円
 - ～その他費用が発生するもの～
 - ・柔道衣8,800円
- ※価格は変更になる場合があります。
(ご自身で購入される場合は不要です)
- ・スポーツ安全保険料:
【A1】800円【AW】1,450円(任意保険)



呉竹道場HPは
こちら



毎年恒例のスイカ割りの様子

令和6年度 決算報告書

令和6年度 事業報告

収入の部 (単位: 円)

科目	令和5年度予算	補正・流用額	令和6年度決算	増減	備考
1.前期繰越金額	34,935,984		34,935,984	0	
2.会費	3,210,000		3,210,000	0	令和6年度新入会107名
3.預金利息	1,000		17,370	▲ 16,370	普通預金利息
4.雑収入	1,000		0	1,000	科目存置
収入合計	38,147,984	0	38,163,354	▲ 15,370	

支出の部 (単位: 円)

科目	令和6年度予算	流用額	令和6年度決算	増減	備考
1.運営費	310,000	0	126,581	183,419	
(1)消耗品費	10,000		0	10,000	
(2)通信費	150,000		112,561	37,439	送付(総会案内、理事会案内、公開講座講師依頼・チラシ郵送)
(3)印刷費	60,000		0	60,000	
(4)交通費	70,000		14,020	55,980	会議時交通費、学校行事時交通費
(5)会議費	10,000		0	10,000	
(6)雑費	10,000		0	10,000	
2.活動費	8,420,000	0	3,916,372	4,503,628	
(1)総会費	100,000		69,300	30,700	卒業生の集い(柔道整復科)
(2)呉竹祭費	1,000,000		789,191	210,809	クラスイベント支援、共通イベント開催費等
(3)学校行事協賛金	1,100,000		908,126	191,874	柔道大会、スポーツ大会飲料、公開講座全4回、あん摩甲子園、チアリーディング、関係団体イベント協力学生謝礼・交通費、保存食等
(4)表彰費	200,000		121,570	78,430	スポーツ大会等表彰・賞品
(5)慶弔費	20,000		10,000	10,000	卒業式
(6)学術研究費	800,000		152,013	647,987	呉竹医学会、東洋療法学校協会学術大会(大阪:学生3名)
(7)同好会補助費	400,000		221,428	178,572	8同好会(＠4万円)
(8)進路支援費	100,000		78,650	21,350	就職支援ソフト登録費
(9)図書等寄贈費	3,700,000		1,566,094	2,133,906	図書寄贈、自習室パソコン12台
(10)予備費	1,000,000		0	1,000,000	
3.次期繰越金	29,417,984	0	34,120,401	▲ 4,702,417	
支出合計	38,147,984	0	38,163,354	▲ 15,370	

月日	摘要	内容
令和6年4月5日(金)	入学式 会員名簿作成	新会員107名入会
4月21日(日)	学校説明会支援学生等補助	協力学生用QUOカード購入8名分
5月2日(木)	スポーツ大会開催	学生用飲料、学生スタッフ用QUOカードの購入
5月中旬	監事監査	監事交通費1名分支払い
5月12日(日)	学校説明会支援学生等補助	協力学生用QUOカード購入8名分
6月16日(日)	学校説明会支援学生等補助 理事会の開催 定期総会の開催 卒業生の集い	協力学生用QUOカード購入10名分 役員・担当理事の決定 令和5年度事業報告・会計報告 令和6年度事業計画・予算
7月21日(日)	呉竹祭の開催	会長出席
7月31日(日)	学校説明会支援学生等補助	協力学生用QUOカード購入4名分
8月6日(火)	全国柔道整復学校協会柔道大会	大会用柔道着寄贈、交通費、慰労会
8月25日(日)	あん摩甲子園・アマ指コンテスト	学生参加費用4名分
9月1日(日)	学校説明会支援学生等補助	協力学生用QUOカード購入4名分
9月28日(土)	呉竹医学会協賛(大宮校開催)	会長出席
9月29日(日)	学校説明会支援学生等補助	学生動員無し
10月10日(木)	東洋療法学校協会学術大会	交通費、宿泊費
11月16日(土)	理事会の開催	事業計画執行状況の報告 次年度計画方針等
11月17日(日)	公開講座	鍼灸科1回目: 講師 古里 亮磨 先生 柔整科1回目: 講師 向家 知宏 先生
11月30日(土)	同窓会報発刊(くわだけ10号)	本校HPにて公開
12月15日(日)	公開講座 卒業生の集い	柔整科2回目: 講師 高山 大希 先生
令和7年2月23日(日)	公開講座	鍼灸科2回目: 講師 森田 遼介 先生

就職関連情報



企業説明会の様子のご案内

今年度は、5階多目的ホールおよび4階学生ホールを使用した、大規模企業説明会を実施いたしました。企業説明会参加をきっかけに、就職活動により力を入れ始める学生が多く見受けられました。



第1回 令和7年4月24日(木) 36社
第2回 令和7年7月17日(木) 38社
ご参加いただきありがとうございました!

来年度以降も大規模な企業説明会を実施する予定です。求人募集を行っている治療院・企業の皆様へ企業説明会参加のエントリーのご案内を行いますので、是非ご検討ください。エントリー受付については学校ホームページ等でお知らせいたします。

(大宮呉竹医療専門学校 事務局 就職担当)

求人掲載情報

昨年度より本校では在校生・卒業生の為の求人システムとして「CareerMap」と「セリアジョブ」の2つを使用しています。求人票を登録頂ける方は、学校ホームページよりお申し込みください。登録料は無料です。それぞれに求人を出すことも可能ですので、お気軽にご登録ください。ご相談はお電話でも受け付けております。

(大宮呉竹医療専門学校 事務局 就職担当)



登録サイト

NEW

「Shinro」最新号完成!

呉竹学園&セリアジョブ発行の就職情報冊子「Shinro」の最新号Vol.7が完成しました。呉竹学園3校の卒業生30名の活躍状況も掲載しています。また、業界概要や働き方や雇用条件、資格説明など、様々な切り口で就職情報をご紹介します。さらに、本誌には大宮校の在校生が考える「大宮校の魅力」、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師の「資格の魅力」もご紹介していますので、入学希望者に向けての業界紹介ツールとしても活用ができる仕上がりとなっています。





「呉竹学園 創立100周年に寄せて」

1926年の設立以来、呉竹学園は「国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成する」ことを建学の理念として掲げ、伝統医療を通じて多くの専門家を社会に送り出してまいりました。この間、卒業生の皆さま一人ひとりが全国各地で活躍され、地域医療の発展や人々の健康づくりに尽力してこられたことが、学園の歩みを支え、今の呉竹学園を形づくっていただきました。改めて、長きにわたり温かく見守り、ご支援くださった卒業生の皆さまに、心より感謝申し上げます。そして2026年10月、呉竹学園は創立100周年を迎えます。この節目の年を迎えるにあたり、100年の歴史を振り返るとともに、次の時代へと伝統をつなぐ新たな一歩を踏み出します。

100周年記念事業のコンセプトは、「伝統医療教育の100年一人を育て、未来を拓く」です。「東洋医学の灯を消さない」という創立以来の志を胸に、呉竹学園はこれからも、社会が求める人材の育成と伝統医療の発展に尽力してまいります。記念式典や講演会、記念誌の発行など、様々な記念行事を予定しており、これらの活動は教職員、在校生、そして卒業生の皆さまと共に歩む“感謝と継承の機会”にしていきたいと考えています。これからの100年も、呉竹の精神を大切にしながら、皆さまと共に新しい歴史を紡いでまいります。

引き続き温かいご支援とご声援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

Tokyo



Yokohama



Omiya



「100周年記念事業募金」のお知らせ

呉竹学園100周年事業の実現にあたり、卒業生の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまからのご支援をお願い申し上げます。お寄せいただいたご厚志は、学校の施設設備の拡充並びに教育研究の維持向上を図るために活用させていただきます。

「100周年記念事業募金」に関するご案内は今後ホームページ等を通じて呉竹会会員の皆さまへご案内させていただきます。皆さまからの温かいご支援が、次の100年を築く力となります。どうぞ趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新入職員紹介



新たに加わった職員の皆さんをご紹介します。
それぞれが専門分野での経験や熱意を胸に、学生や卒業生の皆さまを支える新しい力として活躍を始めています！
フレッシュな視点と情熱にあふれる挨拶をぜひご覧ください。

はりきゅう附属施術所 寺崎 育子

平成28年に大宮呉竹医療専門学校を卒業後、約2年間、同校附属施術所で研修を受け、平成30年から6年間パートタイムとして臨床経験を積んでまいりました。光栄なことに、長年ご指導くださった先生方の後押しを得て、令和6年4月より正職員として迎えて頂きました。日々の臨床に邁進するだけでなく、研修生や学生の臨床指導を行うことで、私自身の成長も大いに促されてきたと実感しております。引き続き自己研鑽に努め、学生の臨床力向上や、研修生が立ち立つる後押しができるよう精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



鍼灸科・鍼灸マッサージ科 佐藤 麻未

令和6年度より大宮呉竹医療専門学校 鍼灸マッサージ科に専任教員として着任いたしました佐藤麻未です。学生一人ひとりの個性と可能性を尊重しながら、知識や技術の習得はもちろん、鍼灸の魅力や学ぶ楽しさ、そして「誰かの役に立つ喜び」を実感できる授業づくりを心がけています。鍼灸マッサージ師や柔道整復師は、患者様と深く関わる職業です。進展する医学知識を柔軟に取り入れつつ、患者様に寄り添う“人となり”こそが、機械には代替できない価値であり、医療人としての本質であると感じております。東洋医学と西洋医学の両面を活かし、心と生活に寄り添える医療人は、今や社会に不可欠な存在です。多くの臨床に出られた先生方のように誇りをもって働ける未来の医療人のため、私自身も日々研鑽を重ねてまいります。



鍼灸科・鍼灸マッサージ科 熊田 祥江

令和7年4月より鍼灸科・鍼灸マッサージ科に入職いたしました熊田祥江です。これまで柔道を軸に競技や指導に携わり、大学での教育活動や青年海外協力隊として体育指導を行い、また接骨院での業務にも携わってきました。医療分野での学びはまだ浅いですが、これまでの経験を活かしつつ、さらに研鑽を重ね、学生の皆さんの成長に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



事務局 尾方 陸斗

昨年の11月より大宮校の事務員として入職しました、尾方陸斗と申します。九州で金融会社に勤めた後、この度ご縁があり呉竹学園に勤務することになりました。教育現場での勤務は初めての経験になりますが、未来ある学生の学習や、今後の進路・将来に関われることをとても嬉しく思います。現在は外部臨床実習の取りまとめ、教職員の勤怠管理を中心に業務を行っております。学生が気持ちよく学習できる環境を整え、少しでも学生の将来のために力になれるよう、日々の研鑽を続けてまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。



事務局 鈴木 愛理

本年3月より、事務職員として勤務させていただいております。鈴木愛理と申します。前職は地元・秋田県で市役所職員として勤務しておりましたが、大学時代を過ごした埼玉県に再び戻ってまいりました。伝統と信頼を誇る呉竹学園の一員として働けることを、大変光栄に感じております。日々の業務を通じて、あはき師や柔道整復師の皆さまが、社会に大きく貢献されている素晴らしい職業であることを、改めて実感しております。学生の皆さんがより良い環境で学び、教職員の皆さんが安心して業務に取り組めるよう、全力でサポートしてまいります。何卒ご指導のほど、よろしくお願申し上げます。



事務局 奈木 翔

令和7年度10月より事務職として本校に入職いたしました。これまでのキャリアとして、医学部専門予備校での勤務経験と、IT部門に特化した人材派遣会社での勤務経験がございます。これらの職務を通じて、私が業務を行う上で一貫して大切にしてきたのは、「人とのつながりを基盤とすること」です。生徒や求職者、取引先といった多様な人々と真摯に向き合い、信頼関係を築くことで、より質の高い業務遂行が可能になると考えてまいりました。学生の皆様が未来の医療人となるための大切な学びの場であると同時に、医療現場でもある本校においても、この「人とのつながりを大切に」という考えを忘れず、日々の事務業務に取り組んでいく所存です。学生の皆様が安心して学べる環境を支え、また、少しでも皆様の将来のために力になれるよう、日々の研鑽を続けてまいります。皆様からのご指導を仰ぎながら、本校の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。



編集後記

呉竹会会報誌『KURETAKE』第11号をお読みいただき、誠にありがとうございます。本号の制作にあたり、今年度も多くのイベントや行事が実施され、活気あふれる一年であったことを改めて感じています。日常の学校生活では同好会が活発に活動し、学生たちの生き生きとした姿が印象的でした。また、本校教員の強みを活かした特別講座も昨年度に続き開催し、在校生として授業に+αの学びを提供できた一年でもありました。振り返りの中で欠かせないのは、まず「呉竹祭」です。学生、教職員ともに毎年心待ちにしている行事であり、今年は時期を6月に早めての開催となりましたが、天候にも恵まれ無事に実施できたことに安堵したことを思い出します。同日開催の「卒業生の集い」には多くの卒業生が来校し、母校との再会を楽しんでくださったことが大変印象に残っています。そして本校が優勝を飾った「あん摩マッサージ指圧甲子園2025」も大きなニュースとなりました。第2回大会にしての快挙は、「大宮をあん摩の地に」という校長の夢に一步近づいた出来事といえるでしょう。このように多彩な取り組みを続けてこられたのも、卒業生の皆さまが本校を温かく応援してくださっているおかげです。末筆ながら、これまでのご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(大宮呉竹医療専門学校 広報担当 小竹沙祐里)

号外

あん摩マッサージ
指圧甲子園2025
の記事は次のページ



号外

あん摩マッサージ指圧甲子園2025

最優秀賞受賞!

「第2回あん摩マッサージ指圧甲子園2025」

令和7年8月24日(日)、大宮呉竹医療専門学校で開かれ、会場は160人を超える関係者、報道関係者らで賑わいました。この大会は、手技の技能を磨き合う風土や免許制度の啓発を目的に「全国あん摩マッサージ指圧コンテスト」として2018年から有資格者を対象に始まりました。「甲子園」と銘打って学生部門を設けたのは昨年からです、今年は運営上の事情から学生部門だけに規模を縮小して行うことになりました。はたして、甲子園の名に負けないほどの広がりが見られるか、不安はありましたが、フタを開けてみると北海道から沖縄までの全国20校から定員いっぱいの30名(視覚障害者18名、晴眼者12名)の腕自慢が集って下さいました。選手各位のチャレンジ精神と行動力に心からの敬意を表します。開会式では、一枝のゆめ財団矢野忠理事長の挨拶の後、昨年最優秀に輝いた飯間彩香さんの母校、四国医療専門学校から優勝杯が返還されました。後援を頂いた厚生労働省医政局医事課の柳田聡専門官をはじめ、東洋療法研修試験財団の奈良信雄理事長、東洋療法学校協会の坂本歩理事、全国盲学校長会の安田咲登子会長から祝辞を頂戴し、舞台は競技へと移りました。誰もが見学できるオープンスペースに設けられた2つの競技会場には8台ずつのベッドが置かれ、臨床経験豊かな患者役と観察役の審査員がスタンバイする中、午前10時30分、競技の火ぶたが切られました。選手は3人の審査員を回り15分ずつの施術を行います。得点は患者役と観察役の審査員が独立して付けたそれぞれの点数を総合して算出されます。技術を点数で評価するのは難しい作業ですが、審査員間のバラツキをできるだけ小さくするための工夫として、患者役を前回までの2人から3人に増やしたほか、審査員には審査基準や触察部位などに関する共通理解を図るための事前研修を受けてもらいました。熱戦は昼食を挟み午後2時30分まで行われました。競技を終えた選手たちは、結果が出るまでの2時間ほど技術交流に興じましたが、彼らは出店会場を兼ねたこの部屋を、熱気と談笑に包まれた世界に演出してくれました。障害の有無の壁を越えて自発的に交じり合い、自校で習った揉み方を紹介し合ったり、自慢の技を披露し合ったり、技術論を熱心に語り合ったりする人の輪が幾重にもできていました。昨年もそうでしたが、あはき教育におけるインクルーシブの実践劇を目の当たりにして、未来に光を見るような感慨を覚えたと思います。さて、審査結果です。昨年瀬戸内海を渡った優勝杯を手にしたのは、大宮呉竹医療専門学校の森一落さんでした。森さんには矢野理事長から優勝杯のほか、賞状と優勝楯が、日本視覚障害者団体連合の竹下会長から賞状と図書券がそれぞれ贈られました。以下、入賞者6名の方々の氏名と所属校を紹介しますが、視覚障害系の学校が3人入ったことにホッとしたいと思います。なお、今年は特別賞として「フレアス賞」が加わりました。

〈入賞者〉

- | | | |
|-------|-----------|---------------|
| 最優秀賞 | ：森 一落さん | 大宮呉竹医療専門学校 |
| 優 秀 賞 | ：鈴木 佳名子さん | 大阪府立大阪南視覚支援学校 |
| 優 秀 賞 | ：松林 隼人さん | 国際鍼灸専門学校 |
| フレアス賞 | ：小川 結花さん | 岩手県立盛岡視覚支援学校 |
| フレアス賞 | ：吉田 藍美さん | 四国医療専門学校 |
| フレアス賞 | ：井口 光世さん | 栃木県立盲学校 |



〈次回予告〉

大宮に集った選手たちは皆、出場に向けた練習だけでなく、審査員から受けたフィードバック、そして技術交流を通して成長を実感できたことと思います。こうした教育の機会の一助になればとの思いから、「第3回あん摩マッサージ指圧甲子園2026」を下記のとおり開催することといたしました。

期 日：令和8年8月23日(日) 会 場：大宮呉竹医療専門学校
 次回も引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

